

マイナスをプラスに変える！ 生き方発見マガジン



TV番組表
6.1▶6.30

6

2021
June
vol.157

FREE

ご自由にお持ちください



highlight

広末涼子

ポジション争いの背景が
しっかりと描かれている作品

interview

マイナスをプラスに変えた分岐点

プロレスラー 神取忍

出来上がった道を進むのは性に合わなかったので、
自分で就職先を探すしかなかったんです



TVホスピタル WEB
医療・健康・暮らし・美容の
総合情報サイト



がんサイダー.info
完治を目指すがん患者の
ための情報サイト



新型コロナウイルスの感染拡大が長期化する中、以前から経済的に困窮していた家庭が、より一層深刻な状況に追い込まれたり、貧困とは無縁だった家庭でも社会情勢の急変で収入が激減したりする例が少なくありません。先進国であるはずの我が国において恵まれない環境に置かれる子供たちが急増しているのです。そんな中、障がい児・発達障がい児など、専門的な療育を必要とする子供や貧困層の子供の支援を行うことを目的とした一般社団法人が、本年3月東京に発足しました。民間だからこそ行える福祉とは何か、自分でも出来ることは何か、一般社団法人ひとのわ協会代表理事・山木陽介氏にお話を伺いました。

一般社団法人ひとのわ協会代表理事

山木陽介

調査会社を経営する中で知った障がい児への療育の重要性

一般社団法人ひとのわ協会は、「困っている子供の救済」を目的に2021年3月に発足しました。障がいがある子供や発達障がいのある子供などに支援療育を行う団体(営利・非営利問わず)や子供食堂などに支援を行っています。

私は東京都内でSKY株式会社という調査会社を経営しているのですが、自分の子供に発達障がいや身体の障がいがあったら、入学予定の学校や施設、住む予定の地域がどのようなところか知りたいという依頼が複数ありました。我が子に明るい将来を、よい療育を考えると考える親御さんからすれば、子供のためになる情報は喉から手が出るほど欲しいのは当然です。しかし、全ての家庭が調査会社を使用してまで、情報を得られるほど経済的に恵まれているわけではありません。そこで、最初は個人で学校関連の情報を無償提供するボランティア活動を行っていましたが、2013年にNPO法人S.i.sを設立し、発達障がい児向けの安全な情報を提供し、親が情報を共有出来るコミュニケーションの場を設けるという活動を開始します。

発達障がい児童を持つ親御さんや療育に携わる方などにお話を詳しく聞き、私が感じた問題は、第三者から見ても

療育よっての改善の可能性を潰してしまうくらい過剰な医療行為を受けているのではないかと感じるケースが多いことです。誤解を恐れずストレートにいい方をすれば、幼いうちから薬漬けの子供が少なくない。

情報を提供すること以外で、療育を必要とする子供と親御さんのお手伝いが出来る方法はないかと考え、障がいがある子供や貧困家庭の子供の支援のために活動している団体を支援する仕組みを思いつき、当団体の設立に至りました。

子供を支援する団体を資金面でサポートする

例えば、発達障がい児の療育や情操教育、自立支援になる活動を行っている団体は、営利・非営利合わせてたくさんあります。そんな団体が資金面の問題を抱えているならば、当社団が賛同してくださる企業から、支援金を募り、それを団体に提供するというのが、具体的な活動内容です。支援の対象となる団体は、当社団で活動の実態があるかなどの調査をさせていただき、支援していただいた企業にはどこの団体を支援したのか、活動報告を行います。

私たちの活動内容を聞いて、個人的に相談にいらつしやる親御さんは少なくありません。これまでのNPO法人での活動を通じてご縁を深めた親御さ

子どもたちの笑顔がみたいから

助けを求める声を 上げられない方にこそ、 支援の手が届くように

んからの情報や、調査会社を営む者として知り得た療育現場の情報などを活かし、障がいの有無を問わず、子供の助けになることであれば出来る限りの力になりたいと努めています。

子供食堂の活動は 思ったよりも困難が多い

貧困やネグレクト(育児放棄)によって十分な食事を得られない子供の救済の場として、子供が無料、もしくは安価で食事を食べられる子供食堂の活動が、全国的に広がりを見せています。

2018年の厚生労働省の調査によつて現在活動中の子供食堂の約80%が自治体以外の独立した法人での運営というデータが発表されています。個人で経営されている飲食店、有志の一般市民が立ち上げたNPO法人や一般社団法人が、ボランティアで行っていることが多く、私財を投じたり、寄付を募ったり……限られた財源の中で活動をしています。

皆さん普段はお勤めをし、その合間を縫って、子供食堂を運営している中で、毎日営業中というわけにはいきません。月に1回程度開催と答える子供食堂が48・5%、2週間に1回以上開催が38・7%、週1回以上の開催となると14・2%でした。開催頻度が高くなれば、運営費用も高額になっていきます。公的機関の助成金制度を利用し

ている子供食堂は68・6%でしたが、その一方で運営に寄付や助成金以外に持ち出しをした経験のある子供食堂は、58%にも上りました。

資金の不足が理由で、せっかくの活動を途中で断念せざるを得ない子供食堂だつてあるでしょう。ひとりでも多くの子供が、一回でも多く温かい食事を食べられるようにするために、子供を支援する団体を支援するという私たちの活動はお役に立つのではないのでしょうか。

助けを必要としている方に 私たちの活動を知らせて欲しい

障がいがある子供を育てている家庭では、生活保護を受けるほどの貧困ではなくても、子供に十分な療育を受けさせるには、経済的に少し苦しいというケースがよくあります。そんな窮屈さは、積もり積もつて親御さんを追い詰めてしまうのです。こんな時、助けしてくれる行政の仕組みがないかを探しても見つからず、疲れ果てて自分は該当しないと諦めてしまう方が多いのです。そんな方に私たちの活動を知って欲しいのです。私たちは困っている方が個人でも、民間だからこそ柔軟に動けます。これまで蓄えてきた情報で、お力になれるかもしれない。ほんの少しのゆとりが出来ることで、親が元気で笑顔になるなら、子供の笑顔が増え

るのです。

読者の皆さんに是非知っていただきたいのは、貧困や障がいの問題以外にも「助けて」と声を上げられない方がたくさんいるということです。支援してくれる機関があることを知らない、知つていても申し訳なきが先に立つて助けを求められない、疲れ切つて声を上げることさえ出来ない……。そんなひとりひとりに支援の手が届くような活動が求められています。

皆さんのお知り合いで困っている方がいたら、私たちの活動を知らせてあげてください。本人に代わつて相談してくれても構いません。個人的な悩みでも出来る限りの助けになりたいと思つています。

取材協力/
一般社団法人ひとのわ協会

【本部】〒104-0043東京都中央区湊
2丁目11番1号シティタワー銀座東919
【池袋支所】〒171-0021東京都豊島区
西池袋3-29-9 福利ビル3F
URL <https://hitonowa.info/>